

みんな 平成25年度決算報告と町の財政状況

で 学ぼう わが町のお金の使い道



ひこざえもん
彦左衛門さん



えこたん

今年もわが町の台所事情をお知らせする時節となりました。平成25年度の1年間で町が使ったお金の中身をご覧いただき、今後の町政の動きを知っていただきたいと思えます。

今年も財政事情に詳しい町のご意見番「彦左衛門」さん（文中では彦左さん）の登場です。質問者は、環境と都市交通のイメージキャラクターの「えこたん」、進行役は広報担当「K」が務めさせていただきます。

◆ 一般会計

K：それでは、25年度の決算の特徴を教えてください。

彦左さん：一般会計の決算は、24年度と比べると歳入も歳出も減ったわけですが、歳入では景気の回復により法人町民税などの税収が10億円余り増え、当初に貯金の取り崩しを11億円計画しておったのじゃが、貯金を取り崩さずに済んだのじゃ。また、借金も平成18年度以来7年ぶりに新たな借金をしなかったのじゃ。

えこたん：景気の状態が良くなってきたのですね。

彦左さん：財源不足を補うために貯金しておいた財政調整基金を取り崩さずに済んだのは、平成22年度以来3年ぶりなのじゃ。じゃが、景気回復が今後も続くとも限らないので、歳出を削減しながら計画的に事業を実施していくことが必要なのじゃ。状況は一時よりもよくなってきたが、引き続き気を引き締めていくことが重要じゃ。

K：25年度はどんな施設整備が行われたのですか？

彦左さん：それじゃあ、25年度に取り組んだ大きな事業について話

をするかのう。

まず、わしだ保育園の整備じゃ。相見駅周辺の人口増加に対応するものじゃな。次に坂崎小学校と幸田中学校の地震補強・大規模改造、道路新設改良工事では、岩堀郷中1号線などの道路整備工事をを行ったのじゃ。これらをひっくるめて普通建設事業というのじゃが、大型事業の完了に伴い24年度と比較して7億円減少しており、歳出減の主な要因となっておりますんじゃ。

えこたん：年々増えているといわれている扶助費はどうですか？

彦左さん：扶助費は、各種福祉サービスや福祉手当の費用、中学校卒業までの子ども医療の無料化、医療費助成などの費用じゃが、今年も増加し、21年度の8・9億円から16・3億円へと5年間で1・8倍に増えているのじゃ。今後も注意深く見守っていかねればならんぞ。

K：それでは、ほかの主な費目もどんなものが教えてください。

彦左さん：それじゃ、物件費から説明しようかの、これは、役場など公施設で働くパートさんの賃金や事務用品などの消耗品、施設の管理や保守点検の委託料などじゃ。町民会館・図書館・プール・

高齢者生きがいセンター・ふれあいプラザ・道の駅の6つの施設は指定管理者制度によって管理運営を委託しているのじゃ。

つぎに公債費は、借金の返済に充てられたものじゃ。25年度は、11・3億円返済し借金残高が64億円となったんじゃ。

えこたん：新たに借金をしなかったの、大分減りましたね。

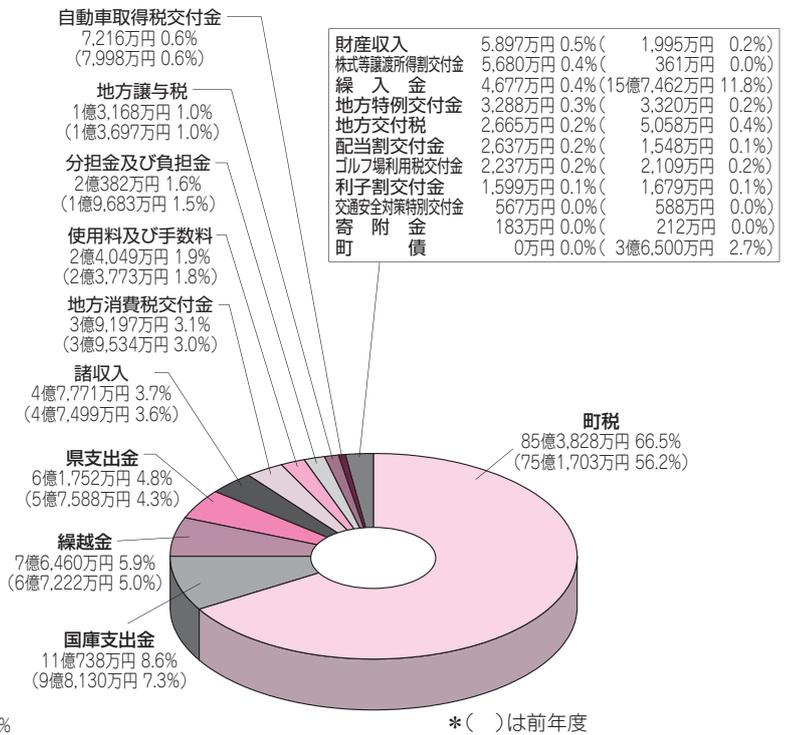
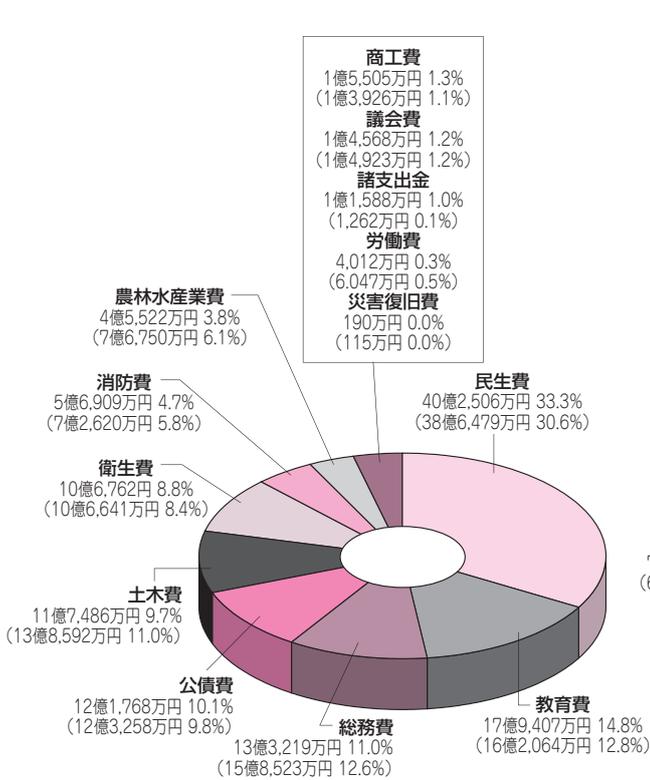
彦左さん：そうじゃ。でも、今後也不必返済額以下の借入れのルールを守って、借金を減らしていく覚悟じゃよ。

次に繰出金じゃ。幸田町には、一般会計のほかに特別会計や企業会計というのがある、それを運営するために一般会計から支出するお金のことを繰出金というのじゃ。下水道特別会計などへの繰出しが減り24年度よりも7・9%減となったんじゃが、今後も適切な繰り出しをする必要があるんじゃよ。

ここまでの話は、一般会計と云うてな、税金などを財源として福祉や教育、消防など町民に広く行われる行政活動における歳入・歳出の会計の話じゃが、幸田町にはそのほかに7つの特別会計と1つの企業会計が設けられておるのじゃ。

歳出 120億9,442万円
(前年度：126億1,200万円)

歳入 128億3,991万円
(前年度：133億7,659万円)



○費目別区分

人件費	30億9,568万円	25.6%	(31億853万円)	24.7%
物件費	19億6,779万円	16.3%	(19億4,772万円)	15.5%
扶助費	16億2,986万円	13.5%	(15億9,381万円)	12.6%
補助費等	13億4,648万円	11.1%	(14億3,816万円)	11.4%
公債費	12億1,768万円	10.1%	(12億3,258万円)	9.8%
繰出金	11億1,778万円	9.2%	(12億1,376万円)	9.6%
普通建設	10億6,230万円	8.8%	(17億3,258万円)	13.7%
積立金	3億1,762万円	2.6%	(1,534万円)	0.1%
維持補修費	2億4,733万円	2.1%	(2億3,837万円)	1.9%
貸付金	9,000万円	0.7%	(9,000万円)	0.7%
災害復旧費	190万円	0.0%	(115万円)	0.0%

○町税内訳

固定資産税	41億5,632万円	48.7%	(40億1,849万円)	53.4%
町民税	37億2,345万円	43.6%	(28億7,775万円)	38.3%
たばこ税	2億9,761万円	3.5%	(2億6,819万円)	3.5%
都市計画税	2億8,382万円	3.3%	(2億7,636万円)	3.7%
軽自動車税	7,331万円	0.9%	(7,229万円)	1.0%
入湯税	377万円	0.0%	(395万円)	0.1%



●都市計画税の使いみち

都市計画税は、都市計画事業などのための目的税で、下表の事業に充てられています。

事業名称	事業費	都市計画税からの充当額
都市計画総務事業	7,819万円	3,273万円
土地区画整理事業	7,947万円	3,360万円
街路事業	96万円	41万円
公園事業	8,008万円	1,490万円
幸田駅前土地区画整理事業	2億7,249万円	7,437万円
公共下水道事業	6億7,266万円	1億2,781万円
合計	11億8,385万円	2億8,382万円

※主に、下水道整備、幸田駅前区画整理、岩堀・六栗・里地区の土地区画整理事業などに充てられています。

●入湯税の使いみち

入湯税は、鉱泉浴場における入湯に対し、入湯客に課されるもので観光の振興および観光施設の整備等に要する費用のための目的税で、下表の事業に充てられています。

事業名称	事業費	入湯税からの充当額
観光事業	2,132万円	377万円

※主に、大井池等改築工事などに充てられています。

◆特別・企業会計

K：では、25年度の幸田町の特別会計と企業会計で、どのようにお金が使われたのか教えてください。

彦左さん：よっしゃ。一般会計は主に税金を財源として運営されておるのじゃが、特別会計は、ある特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計なのじゃ。

まずは、**土地取得特別会計**じゃ。この会計はな、公用・公共用に使われる土地や公共の利益のために事前に土地を購入するための会計なんじゃ。

25年度は、一般会計への荻谷小学校の拡張用地売却いと、保有土地の売却が主なものじゃった。

国民健康保険特別会計はな、職場の健康保険などの適用を受けない町民が病気やケガをしたときに、本人の負担以外の医療費を医療機関などに支払ったり、出産や死亡したときに経費の一部を支給したり、皆で支え合う会計なのじゃ。

25年度末の加入状況は、4,737世帯8,784人の皆さんがこの保険に加入しておるわけじゃ。

後期高齢者医療特別会計はな、

75歳以上の高齢者に係る医療保険に関する会計じゃ。

後期高齢者医療に関しては、医療費の給付などは広域連合で行い、この特別会計では、保険料の徴収と健康診断などの事業を実施しておるのじゃ。25年度末の被保険者数は3,411人じゃ。

介護保険特別会計はな、高齢になって、介護が必要となった場合に受ける介護サービスの本人負担以外の経費を、加入者と税金で負担し介護サービス事業などに支払う会計をいうのじゃ。

25年度末では、574人が要介護、321人が要支援の認定を受けて各種サービスを受けたのじゃ。

次は、**幸田駅前土地区画整理事業特別会計**じゃ。この会計は、幸田駅前地区の区画整理事業を円滑に施工するための会計なのじゃ。

25年度は、建物移転補償などの事業が主なものじゃった。

農業集落排水事業特別会計はな、幸田町は、全町下水道化を推進しており、この会計は農村集落の環境整備の一つとして進められておるのじゃ。町内13地区すべて供用開始されており、それらの施設の維持管理事業を行っておるのじゃ。

下水道事業特別会計はな、農村

集落以外の市街地の下水道整備などを運営しておる会計じゃ。

幸田町では、既存の市街化区域の整備がおおむね完了し、周辺集落区域と新市街化区域の整備をしたんじゃ。

25年度末で農業集落排水と下水道などの汚水処理人口は、39,048人となり、普及率は99.8%となったわけじゃ。

最後は、**水道事業会計**じゃ。この会計は企業会計と言うてな、幸田町の水道事業の運営がされておる会計なのじゃ。

幸田町の水道普及率は25年度末99.8%で、水源は県企業庁から水を買って各家庭に配水しておるのじゃ。25年度の総配水量は約466万立方分で、1日に永野水道山タンク2.5杯分で、24年度と比べると25年度は5万6千立方分の増加となったのじゃ。

どうじゃな、この厳しい財政状況の中、限られた財源を生かしながら幸田町では実にさまざまな事業が進められておるのじゃ。分かってもらえたかのう。

えこたん：よく分かりました。幸田町では、住民のみなさんに関するいろいろな事業が行われているのですね。今後、お金の使われ方に関心を持っていきたいと思

います。

■決算状況

会計名			歳入(a) (伸び率)	歳出(b) (伸び率)	差額(a) - (b)
一般会計			128億3,991万円(4.0%減)	120億9,442万円(4.1%減)	7億4,549万円
特別会計	土地取得特別会計		9,453万円(18.5%減)	4,846万円(46.9%減)	4,607万円
	国民健康保険特別会計		31億5,252万円(3.2%増)	29億7,925万円(1.4%増)	1億7,327万円
	後期高齢者医療特別会計		2億7,123万円(1.8%減)	2億7,080万円(1.8%減)	43万円
	介護保険特別会計		14億4,266万円(6.8%増)	14億1,749万円(5.9%増)	2,517万円
	幸田駅前土地区画整理事業特別会計		2億8,670万円(55.8%減)	2億7,249万円(57.2%減)	1,421万円
	農業集落排水事業特別会計		3億5,898万円(3.5%減)	3億5,041万円(3.7%減)	857万円
下水道事業特別会計			6億8,720万円(17.0%増)	6億7,266万円(16.3%増)	1,454万円
企業会計(税抜き)	水道事業	収益的収支	6億4,702万円(1.1%増)	5億9,620万円(3.2%減)	5,082万円
	会計	資本的収支	1億3,277万円(20.8%減)	2億3,862万円(5.3%減)	▲1億3,535万円
総合計			198億8,402万円(3.3%減)	189億4,080万円(3.9%減)	9億4,322万円

※歳入には翌年度繰越明許費(事業財源分) 一般会計 576万円、幸田駅前土地区画整理事業特別会計 1,200万円、下水道事業特別会計 520万円を含む

指標で見る財政情報

経常収支比率

経常的・義務的経費にあてる割合

70～80%…適正

90%以上…要注意

25年度…84.7%

24年度…95.6%

23年度…92.0%



実質公債費比率

借金の一般財源に占める割合

10%以下…望ましい

25年度…8.5%

24年度…9.4%

23年度…10.4%



財政力指数

財政上の力を示す指数

指数が1以上の団体は

財政力の強い団体といえる

25年度…1.04

24年度…1.07

23年度…1.05



平成25年度に使われたお金を
町民一人当たり換算すると…

30万8,886円

(前年度 32万5,362円)

120億9,442万円 ÷ 39,155人
(一般会計) (H26.3.31)



■町民一人当たりを目的別に見てみると… ()前年度

1	民 生 費	10万 2,798 円(9万 9,703 円)
2	教 育 費	4万 5,820 円(4万 1,809 円)
3	総 務 費	3万 4,023 円(4万 895 円)
4	公 債 費	3万 1,099 円(3万 1,798 円)
5	土 木 費	3万 5 円(3万 5,753 円)
6	衛 生 費	2万 7,266 円(2万 7,511 円)
7	消 防 費	1万 4,534 円(1万 8,734 円)
8	農 林 水 産 業 費	1万 1,626 円(1万 9,800 円)
9	商 工 費	3,960 円(3,593 円)
10	議 会 費	3,721 円(3,850 円)
11	諸 支 出 金	2,960 円(326 円)
12	労 働 費	1,025 円(1,560 円)
13	災 害 復 旧 費	49 円(30 円)

()前年度

◎ **一般会計・特別会計**
一般会計と各特別会計の決算総額は、前年度と比較し、歳入・歳出のおの減少となった。歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支を始め、実質収支、単年度収支は黒字であった。町税などの未収金は、若干減少しているものの、未納者に対しては、個別のケースに応じた対応を継続する一方で厳正な措置も必要である。また、主要な財務指標では、公債費比率は年々着実に減少しており、経常収支比率も大幅に改善されている。今後も計画的な起債に留意するとともに、経費の節減と事業の効率化に努められたい。

◎ **総評**
平成25年度決算では、法人町民税や固定資産税などが増加したため、町税全体でも前年度を上回る増収となり、一部の財務指標においても改善がみられるなど、リーマンショック後の最悪期を脱出したものと見受けられる決算であった。限られた財源を有効に活用し、質の高い住民サービスを持続的に提供するため、各種施策の推進に努め、更なる事務事業の効率化や行政運営の手法の見直しなど、住民福祉の向上に一層努力されることを望むものである。
(平成25年度決算審査意見から)

決算審査報告

幸田町監査委員 羽根測 保博
内田 等

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書などは、いずれも関係法令などに準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行はおおむね適正であると認められた。

◎ **水道事業会計**
水道事業会計は、前年度と比較し、年間総配水量および年間総有収水量ともに増加している。総収益および最終純利益もおおの増加している。引き続き安定かつ良質な水の供給に向け、施設の耐震対策・ライフライン機能強化・サービスの向上を含めた総合的な事業の取組が必要と考える。

K: そうですね。町の財政状況もひとりひとりが関心を持っていかねければいけないですね。
彦左さん: そのとおりじゃ。それ

を住民に分かりやすくお知らせするための、財政健全化の指標が公表されておるから、そちらも見てみるかの。

◆平成25年度決算に基づく健全化判断比率の公表

彦左さん…まず、財政健全化法について説明するかのう。これは、平成18年6月の北海道夕張市が財政破たんしたことを発端に、新しい法律ができ、平成19年度から毎年議会や住民に対して財政状況を公表することが義務付けられたのじゃ。

えこたん…健全化判断比率で何が分かるんですか？

彦左さん…そうじゃな、これまでの財政指標というのは、一般会計、土地取得特別会計と幸田駅前土地区画整理事業特別会計の3会計のみの決算額で計算する普通会計ベースの指標じゃったんじゃ。そのためにほかの特別会計や第3セクター、公社といった外部団体でいくら赤字があっても指標上は黒字決算になり、本当の財政状況がわからなかったんじゃが、新しい法律ができて、それらをすべて含めた連結決算により指標を公表することになったのじゃ。

えこたん…じゃあ、数値が悪いとどうなるんですか？

彦左さん…基準を一つでも超えれ

ば、財政健全化のための計画を作成しなければならなくなったんじゃ。

K…それでは、各指標について教えてください。

彦左さん…それじゃあ、ちょっと難しいけど財政健全化判断指標を一つずつ説明していこうかのう。

まずは、**実質赤字比率**じゃ。これは、福祉、教育、まちづくりなどの普通会計の赤字額を町税などの財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**連結実質赤字比率**じゃ。これは、決算の報告をしている一般会計と7つの特別会計、それと水道事業会計の連結決算の指標じゃ。すべての会計の赤字と黒字を足して、全体の資金不足を把握するため、町税などの財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。これも幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、**実質公債費比率**じゃ。これは、借入金の返済額などの大きさを指標化して、資金繰りの危険度を示しておるのじゃ。幸田町は

3カ年平均が8.5%で基準値を下回っておるのじゃ。

えこたん…基準以下なら安心ですね。

彦左さん…いや。下回っていても愛知県内の市町村の中では高い方なんじゃ。数値自体は、24年度は9.4%だったから0.9%改善されておる、危険なレベルではないけど、もっともっと借金を減らしていかなとな。

次に、**将来負担比率**じゃ。これは、特別会計や一部事務組合、幸田町にはないが第3セクターといった外部団体まで含めた借入金や将来支払っていく可能性のある負担の現時点での残高の程度を指標化して、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示しているのじゃ。25年度は、24年度と同様に将来負担より貯金などの方が多くなったため数値は計上されなかつたのじゃ。

えこたん…それじゃあ、安心ですね。

彦左さん…あくまで指標じゃから安心とはいえないけれど、今後も将来負担が財政を圧迫しないような財政運営が必要じゃな。

最後に、**資金不足比率**じゃ。これは農業集落排水事業、下水道事

業、水道事業の3つの公営企業の資金不足を、それぞれの料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示したもののじゃ。幸田町の公営企業はすべて黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

えこたん…25年度もすべての指標が基準をクリアして良かつたわ。これからもしっかりチェックしなくっちゃね。

彦左さん…その通りじゃ。幸田町の財政状況について、住民も議会もみんなでチェックすることが大事なんじゃぞ。

K…ここではほんの少ししかお伝えできませんが、詳しいことがお知りになりたい人は、幸田町のホームページ「財政」をご覧になるか、役場へ来て聞いてくださいね。

問合せ 財政課財政G

(内線353)



1 財政健全化判断比率

下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準を下回っています。

() は黒字比率

	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	— (▲ 9.6%)	13.70%
連結実質赤字比率	— (▲ 29.0%)	18.70%
実質公債費比率	8.5%	25.0%
将来負担比率	— (▲ 44.8%)	350.0%

※早期健全化基準

財政健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上の場合、財政状況はイエローカードである「早期健全化段階」となり、財政健全化計画を定めなければならない。

○財政健全化判断比率の近隣市町状況

市町村名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
幸田町	—	—	8.5%	—
岡崎市	—	—	▲1.3%	—
西尾市	—	—	5.7%	38.0%
蒲郡市	—	—	▲1.6%	—
県平均	—	—	4.5%	17.5%

※全国の自治体の状況については、総務省のホームページ (<http://www.soumu.go.jp/>) をご覧ください。

2 公営企業の資金不足比率

下表のとおり、資金不足を生じた公営企業はありません。

() は黒字比率

	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	— (▲ 9.1%)	20.0%
下水道事業特別会計	— (▲ 4.2%)	20.0%
水道事業会計	— (▲ 213.6%)	20.0%

※経営健全化基準

各公営企業の資金不足額の、事業の規模に対する比率であり、経営健全化基準 (20%) 以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければならない。

(注) 健全化判断の指標は、数値が高いほど健全性が低く、逆に数値が低いほど健全性が高いと判断される指標で、▲は赤字や資金不足がなく、より健全であることを示しています。